

農繁期

レポート

令和4年 7月号

栄ファーム

オーナー 栄運輸工業株式会社

水田面積 18.4アール

保証量 玄米 828kg

形態品種 特別栽培コシヒカリ



生産者 三上 惇二

7月も快天に恵まれ、中干はしっかりと地面にヒビだらけになるほど良くできました。中干後から出穂期にかけては水が必要で、水がないのではと心配でしたが梅雨のような天気が続き水不足の心配もなくなり一安心しました。生育も順調で、8月に入ったらすぐにカメムシの防除をはじめることになりそうです。

7月の作業内容

1. 中干し (なかぼし)

田の水を抜いて生長を強制的に止めることを中干しといいます。土中に溜まったガスを抜いて新鮮な空気を入れ、根を地中にめぐらし健全に育てる目的と土が固めることで倒伏予防やコンバインが走りやすくなる効果もあります。



2. 間断灌水 (かんだんかんすい)

中干し後の幼穂形成期迄は3~4日掛けて水を入れ、2~3日掛けて水を抜く作業を繰り返します。土壌中に酸素を供給し根の発育を促進させるためと、穂を大きくさせる為に大量の水が必要で水は切らさないよう管理します。



3. 肥料散布 (穂肥ほごえ)

穂を発育させるための追肥。肥料の散布は基本的2回で1回目はモミの数の増やし、2回目はモミを大きくします。穂肥の量が少なければ刈取り収量が減り、多ければ窒素が残り食味を落すため施肥量の決定が難しい肥料です。



4. 電気柵の設置

年々鳥獣被害が増えてきています。電気柵の設置も早めに行うようになりました。出てくる動物の大きさにあわせて高さが変わります。鹿がでる地域は低いと飛び越えてくるので高さが必要です。

